

リニアは夢の乗り物か？

ストップリニアニュース No.56

発行：2020.3.28 リニア新幹線を考える相模原連絡会 <http://sagamihara-g.mond.jp/>

リニア残土が命と環境をおびやかす！

採石を装う残土処分？

新戸採石場 – 採石は2.4万^m³、盛土は125万^m³！

リニア中央新幹線の藤野トンネル区間（道志川左岸～山梨県上野原市）の非常口が新戸（旧相模湖町）と大洞（旧藤野町）に変更になりました。当初、この区間からは135万^m³の残土が排出される予定になっていました。その後JR東海は、排出量を200万^m³に変更しました。新戸、大洞それぞれの処分量は不明ですが、200万^m³の残土は当該地にある採石場に全量埋め戻すことを表明しています。

残土の搬入と盛土は作業用道路を作るため

その内の一つ、「新戸採石場」は125万^m³の埋め戻しの許可を得て、神奈川県と相模原市の公共残土の指定処分地として、既に残土の処分を行っています。採石した後の谷に残土を入れて、60mもの高さに盛り上げる巨大な谷埋め盛土です。採石法や採石技術指導基準書には外からの残土の受け入れについては一切規定がないことからその根拠を担当窓口である津久井地域環境課に問い合わせました。担当課からは口頭で、「碎石の際に発生する廃土、廃石の処理の基準を準用している。政令市への事務移譲前の神奈川県の時からの取り扱いである」旨の解答がありました。

さらに、情報公開により計画図面を請求しながら確認したところ驚くべき事実が明らかになりました。採石した後の断崖絶壁の上部に良質な岩石が残っており、これを採取するための作業用の道路を作る必要から、外からの残土を入れて盛土しているとのこと。認可された計画は、上部に残る2万4,000^m³の岩石を取るため、125万^m³の残土を入れるというものです。採石を前提にしているため、採石の際に発生する廃土、廃石の処理の基準を準用して、外からの残土の搬入と盛土を許可しているということです。採石2万4,000^m³に対して盛土125万^m³は明らかに目的と手段が転倒しており、採石を装う残土処分と言わざるを得ません。



新戸採石場

異常降雨、大地震時の大規模崩壊を懸念

125万^m³の量は、124万^m³と言われている東京ドームの規模を超えるものです。直下には、新戸の集落があり、県道518号線が通り、道志川が流れています。また、ここには牧馬・煤ヶ谷構造線も走っています。谷埋め盛土は各地で災害の要因となっています。専門家からは降雨時や地震時における地下水の動きが盛土崩落の危険性を高めていることが指摘されています。

昨今の、土砂災害を頻発させる異常降雨や発生確率が高まっていると言われる大地震を考えた時、盛土の大規模崩落が心配されるところです。新戸採石場はこの5月7日に許可の期限が満了になります。リニア残土の受け入れに向けて、事業者は新たな認可の手続きを行うものと思われます。

相模原市は新たな認可中止を！

リニア連絡会としては、先に見たような、採石に名を借りた盛土の危険性を広く世論に訴えろと共に、相模原市には新たな許可を出さないよう働きかけていきます。（河内）

リニア相模原連絡会

ブログ：<https://linearsagamihara.hatenablog.com/>

ツイッター：<https://twitter.com/tV8aD60PlgYXFFE>

リニア残土学習会 2.23 桂川雅信さんのメッセージ 「リニアへの賛否とは関係なく 谷埋め盛土の危険から命とくらしを守ろう」



お話しする桂川さん

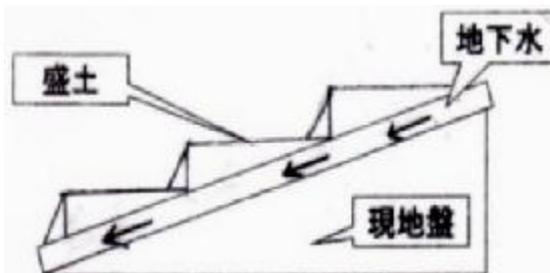
— 2月23日に行われた桂川さんの講演の要旨を紹介します —

業者に丸投げ、JR 東海は責任をとらない

JR 東海は最後まで残土を管理し安全を保障出来るのか、が大事なポイントだ。国は処分地の規制をしないため、JR 東海は危険を回避せず、金のかからない近場に捨てようとする。JR 東海と提携した業者が別の目的で盛土を計画し相模原市が認可、そこへリニアの残土を「有効活用」させる手法で、JR 東海は一切の責任を負わない。残土受け入れで儲けた業者は、当初の計画を盛土の完了とともに放棄することができる。残るのは危険な盛土であり、相模原市民は重大な負の遺産を背負うことになる。

盛土の地滑り(滑動崩落)のメカニズムと危険性

「盛土は年数が経てば安定する」というのは嘘。阪神淡路大震災によって谷埋め盛土の地滑りが多数発生し多くの人命が奪われた。この災害の解析からゆるい傾斜ほど崩れるという、今までの常識とは反対の事実が分かった。盛土の地下に浸透した雨水は地下水となり盛土内を流れる。盛土の工事で敷いた地下排水管は必ず目詰まりをする。谷底の傾斜がゆるいほど盛土内部の流速が遅いため地下水位が上がり、谷埋め盛土の地滑りの危険は増す。そこへ大雨や大地震が起こると盛土内の地下水圧が過剰となり盛土は地すべりを引き起こす。



谷埋め盛土は全国で災害の要因になっている

盛土の安定計算のやり方は半世紀以上変わっておらず、国・自治体の開発規準は滑動崩落を想定していない。谷埋め盛土では地下水圧が過剰になれば摩擦抵抗はほぼゼロになり、安全率自体が成り立たず、被害は拡大するばかりだ。三六災害(伊那谷の豪雨による大災害)を経験した長野ではリニア残土の谷埋め盛土を多数撤回させた。長野県内では2%しか処分先が決まらず、工事は今も進んでいない。

採石場への盛土は違法行為

採石法では、採石場での埋め戻し材料は採石場で発生した土を使うと定めている。他の地域の残土で埋め立て盛土するというのは明らかに違法だ。市は採石法の「準用」と言うが準用規定もない。勝手な法解釈で行政をゆがめてはならない。設置場所も、人家、県道、河川、取水施設や断層が至近にあり、採石指導技術基準書からみて不適切で許されない。

一人も犠牲者を出さないために

市内新戸(しんど)大洞(おおほら)の採石場と葦尾根(いさおね)の沢の谷埋め盛土は、いずれも滑動崩落が発生すれば下流域の危険が増す。葦尾根の直下には活断層もある。豪雨や大地震の可能性が高まる中、地域から一人も犠牲者を出さないために災害の要因は今から除去しておくことが防災対策では大変重要だ。

STOPリニア 守ろう命と環境！ 鳥屋の花まつり

4月12日(日) 11時~14時 小島久男さんの庭園にて

参加費 500円(軽食付き)

連絡先 松本(090-8116-8088)

リニア車両基地予定地の鳥屋の串川大災害

台風 19 号水難記・・・ (2019. 10. 12 栗原晟 記す)

10 月 12 日夕刻、豪雨の最中、テレビは「台風 19 号は 18 : 30 分に伊豆半島に上陸する」と伝えていた。伊豆半島に上陸したら、必ず護岸を超えるであろうと思われ、妻と家から脱出することにした。

しかし、すでに我が家は濁流に取り囲まれていたのである。県道は立派な“河川”と化していた。妻と手を取り、必死で“渡河”し安全な、近所の知人の家に身を寄せた。21 : 00 を過ぎると雨はピタリと止んだ。

帰宅した翌朝に玄関を見て驚いた。池となっていたのである。庭は一面土砂が積みあがっており、それは床下も同様であった。また、庭の一部は、水勢を物語るかのように大きく抉(えぐ)られていた。河川のそばの雑木には、叩きつけられたゴミがへばりついていて、そのゴミの位置・高さから押し測ると、濁流が護岸を乗り越えた高さは 165 cm に達していた。我が家は護岸よりも高い位置にある。それでも家屋は 61cm 高の濁流に襲われたのであった。これほどまでとは想像できなかった。経験してみても分かったことは、戸が閉まっていようが、シャッターが下りていようが、水は隙間さえあれば容赦なく入り込み、大量の土砂を置き去るということである。

12 日の降水量は、相模原市緑区で 595 mm と観測史上 1 位を記録し、鳥屋においては 10 日から 12 日の総雨量は 761 mm に達した。

緑区鳥屋地区における災害状況は、床上・床下浸水、敷地内等土砂流入、崩落箇所などは 180 件に上った。(重複カウントあり)

幸い多くのボランティアの方々や知人、自治会、親類縁者や相模原市等の援助を得て、我が家は復旧を果たすことが出来た。本当に助かりました。感謝申しあげる次第です。

周辺を眺めれば 今回災害の凄まじさを見て取れる。

橋という橋に流木・大木が架かり、道路を川にし、土砂を積み上げ護岸を削り、川の傍の家、沢沿いの家には床上浸水をもたらしたのであった。



右側の串川氾濫で県道に乗りあげた流木と土砂(渡戸)

リニア開発とクスノキ

かながわ気候非常事態宣言が発表されました。国連 SDGs の各国各地域での取り組みが叫ばれる中、相原高校百年の歴史・千本の樹木は伐り倒され、シンボルツリークスノキは「まちづくり(開発)に邪魔だ!」との伐採宣告をされました。日本の政治の「嘘」は安倍・国会のみならず、黒岩・本村行政地方議会にも及んでいます。現存の環境を守るだけではビジネスにならない、スクラップアンドビルドだ! リニアは国策だから・・・開発は市策だから・・・仕方ない?! 市民の生存権、若者たちの未来の生存権は絵空事ですか?!

橋本の緑と安心を守る会 浅賀

農場計画に名を借いた残土処分ではないのか？

「津久井農場計画」（韮尾根地区の志田峠付近）「準備書市長意見書」発表される

2/26、環境影響評価審査会(答申)が開かれた。事業者は準備書計画では、盛土 100 万 m^3 で、農場面積 4ha だったが、それを 60 万 m^3 と 3ha に変更、盛土の高さも 15m 低くするという。そんなに急にえられる計画だったのか？ また市道志田線の拡幅がむずかしくなり、盛土運搬に 10 トンダンプが一日片道 120 台(1 時間 15 台)のシュミレーション、それだと盛土に 4 年近くかかり、3 年という市の条例に違反する。どうするのか、これもまた不確実な要素。

住宅地近くの沢を埋めて膨大な量を盛土し、すれ違いができない道路に大型車を通す計画に、地元の韮尾根や愛川町では大反対している。市道志田線に沿ってあちこちで斜面がくずれている。また沢を埋めて盛土すると滑動崩落する恐れもある。去年 10 月の台風のように 700 ミリを超える雨が降れば、下流の愛川町まで大量の土砂が流れるのではないかと。地元から本村市長宛てに、計画に反対する署名が 11 月と 2 月に合計 2,247 人分提出されている。

審査会会長・片谷氏から、評価書がでて終わりではない、より環境負荷を低減できるものは取り入れてほしい、住民の方との話し合いはやりすぎるといふことはない。それを常に念頭においてほしいとの意見が出された。

審査会の答申を受けて、3 月 11 日付「準備書市長意見書」が市のホームページに掲載された。事業者は今後「環境影響評価書」を市に提出、市民に縦覧され、その後市が土砂条例や森林関係の許認可をすれば工事に入ることになる。盛土する残土はどこから持ってくるのかまだ発表されていない。しかし搬入ルートは県道 510 号から串川橋交差点を左折して国道 412 号に入るとしている。長竹三差路は使わないと。

ずさんで危険な計画は中止するべきではないか。(河村)



現場に建てられた反対の看板

生活用水、残土、工事用車両など 課題は山積のまま暴走 大洞非常口で工事説明会

藤野トンネル区間の大洞非常口の工事説明会が、1 月～2 月の間、周辺の四つの自治会で行われました。工事説明会は、工事着工への通過儀礼といわれています。しかし、工事着工への条件は整ったと言えるのでしょうか。生活用水への影響では、本線トンネルと非常口トンネルが管井簡易水道の 2 か所の水源井の直近を通り、綱子簡易水道は水源井の直近を本線トンネルが通過して行きます。

JR 東海の説明会資料では「全般的には水資源に与える影響は少ない・・・一部において水資源に対して影響を及ぼす可能性がある」と記すのみで根拠は明らかにしていません。

「採石場の埋め戻しに全量を活用いただく」と記す発生土についても、相模原市に確認したところによれば、「まだ許可は出していない」ということです。

1 日 200 台を超える(最大 278 台)工事車両が国道 20 号線に向かって県道 76 号線を通行することも記されています。交通渋滞、騒音、振動、排気ガス、粉塵等の被害が予想されます。この路線は藤野南小、藤野小の通学路にあたっています。

通行車両の時間配慮は朝の 7 時 30 分から 8 時までの 30 分のみです。下校時の工事車両の通行を心配する保護者の声も聞こえてきます。こうした重要な課題を無視して工事を着工するとしたら、「リニアの暴走」と言わざるを得ません。(河内)



★ 活動はみなさまのカンパで維持しています、ぜひご協力をお願いします。
郵便振替口座: 00240-7-71305 口座名: リニア新幹線を考える相模原連絡会

発行者: 代表 浅賀きみ江 相模原市緑区東橋本 2-6-2 携帯 090-4378-9257